

国語「テスト問題を作ろう（俳句）」

1 授業のポイント1

○問題作りをしよう



俳句は、五・七・五の十七音の定型詩です。その小さな詩が、多くの人々に愛好されているのは、野に咲く花から大空に至るまで、あるいは人生の哀歓などを豊かに表現できるからでしょう。

定型とともに俳句を支えているのは季節の働きです。定型と季節、この二つに注意を払いながら作品を読んでみましょう。

たんぽぽや日はいつまでも大空に
中村汀女

五・七・五は、それぞれを五・五・七・五とよみます。この句は、「たんぽぽや」と日はいつまでも大空にの二つの部分に分かれていますので、上五で切れている、あるいは上五に「切れ」があるといえます。たんぽぽは「の」や「は」切れ字といいますが、「たんぽぽ」を印象づける点にも明確な切れを示します。上五の切れは、間を置くことにより緊張感を高め、次への期待を醸成させる効果があります。

この句の場合、上五は春の季語である「たんぽぽ」によって、明るい印象とやさしさを連想させます。続く「七・五」は、大空の太陽がそのまま動かし続けるのではなく、思うほどの日水の勢いを伝えてくれます。この二つの部分の響き合うことにより、春らしい春風の高まりを感じさせるのです。地上の小さな太陽といふたんぽぽと大空の太陽は、響きを分かち合っているかのようです。大きな空間を接したこの句には、春の日の充足感が満ちています。

この「たんぽぽ」は「日はいつまでも大空に」のように、季語とともに、一見無関係に見える事物を組み合わせる方法を「取り合わせ」といいます。

それに対して、次の句では一句全体で一つのことを詠んでいます。

梅をばさじと抱く大樹かな
星野立子

「梅」は繁殖期を迎えた梅が雄雄と宣言や求愛のために鳴くことをいい、春らしい生命感にあふれた季語です。作者は、たんぽぽの鳥がさえずりを聞いているのを聞き、その声と大きな木が抱きかかっている姿とを重ねました。鳥ではなく「梅」を、また「梅」をさじと抱くこととすることで、あふれんばかりのさえずりを思わせます。大樹の枝々は腕のように見えること、さじ（抱く）という擬人法が効果的です。

「大樹かな」の「かな」も切れ字の一つです。ここでは「かな」が「梅をばさじと抱く大樹」をしっかりと受け止める、梅を強く抱くような安定感をたたらす表現になっています。

をりとりにてはらりとおもしろさがある
坂田純男

梅は秋の七草の一つであり、秋を代表する植物です。白い梅が風にたぐくまは美しく、群生しているところを薄雪といいますが、折れ取った梅には寒さというほどの重さはありませんが、それを「はらりとおもしろさ」と表現したところに味わいがあります。この句の特徴は全てが平仮名であることです。もしもこれが「折れ取りてはらりと重さ薄かなたたらら」というように、阿や重さそうに感じられ、はらりとという感触も伝わりません。

この句の「かな」を、前に挙げた梅の句の「かな」と比較してみます。「大樹かな」が強い切れを感じさせるのに対し、「すきかな」は柔らかく言い止める働きをしています。言い切るのではなく、余韻を持たせているのです。このように、切れ字にはいろいろな使い方があり、その効果もさまざまです。俳句は僅か十七音ですが、その表現はさまざまな要素から成り立っています。まず、声に出して読み、リズムを感じてみてください。そして、季節の持つ味わいや、生かされているかを確かめてください。日本語の美しさや四季の変化の中で生まれた俳句の、味わい深い世界が見えてくるはずです。

A 春風や陽だまりにきて丘に立つ
B 万緑の中や春の萌生を物語る
C 赤城山麓に雲をなかりけり
D 冬節のまじはれおのがひかりのみ
E 分け入っても分け入っても春山
F 水の地球すこしはなれて春の月
G ソーダ水方眼式を濡らしけり
H ゆるやかに着てひとと逢ふ夜の夜
I つきぬけて天上の射星珠沙華
J 硝子の魚がささげけの秋
K 雪の夜の紅茶の色を愛しけり
しみのくのみなのさくら咲きぬし

* 上記の文章を教材として、問題を作る学習です。

2 授業のポイント2

○試行錯誤したり復習したりしながら考える



3 授業のポイント 3

○生徒たちが作成した問題（プリントにある俳句をもとにする）

学習プリントに提示した俳句（P 1 のプリント）

- A 春風や闘志いだきて丘に立つ
- B 万緑の中や吾子の歯生え初むる
- C 赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり
- D 冬菊のまとふはおのがひかりのみ
- E 分け入っても分け入っても青い山
- F 水の地球すこしはなれて春の月
- G ソーダ水方程式を濡らしけり
- H ゆるやかに着てひとと逢ふ螢の夜
- I つきぬけて天上の紺曼珠沙華
- J 硝子の魚おどろきぬけさの秋
- K 雪の夜の紅茶の色を愛しけり
- L みちのくのみなどのさくら咲きぬべし

生徒作成問題 1

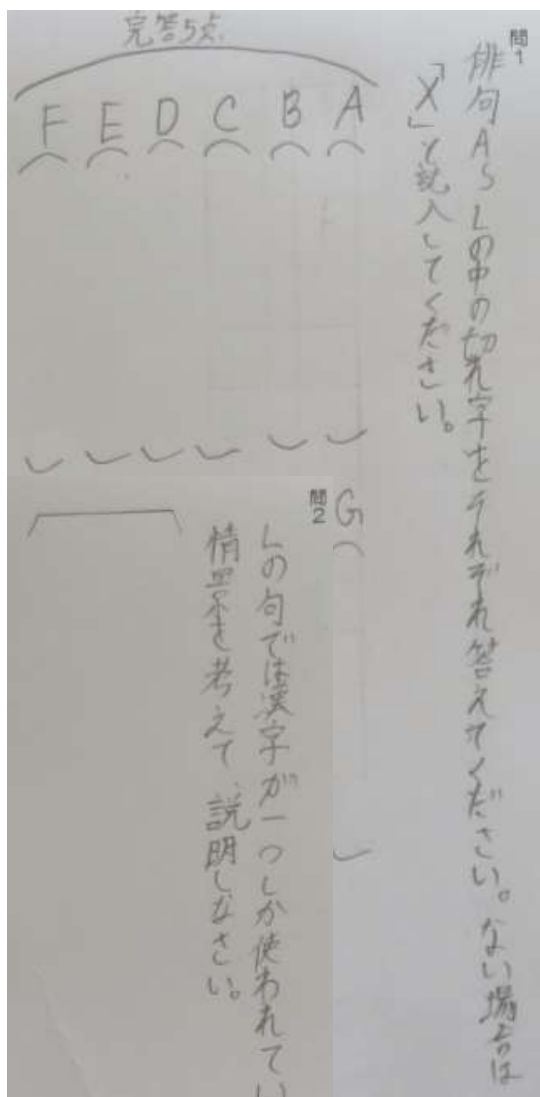
俳句 A～L 中の切れ字をそれぞれ答えなさい。ない場合は「×」を記入しなさい

生徒作成問題 2

L の句では漢字が一つしか使われていません。どうしてなのか情景を考えて説明しなさい。

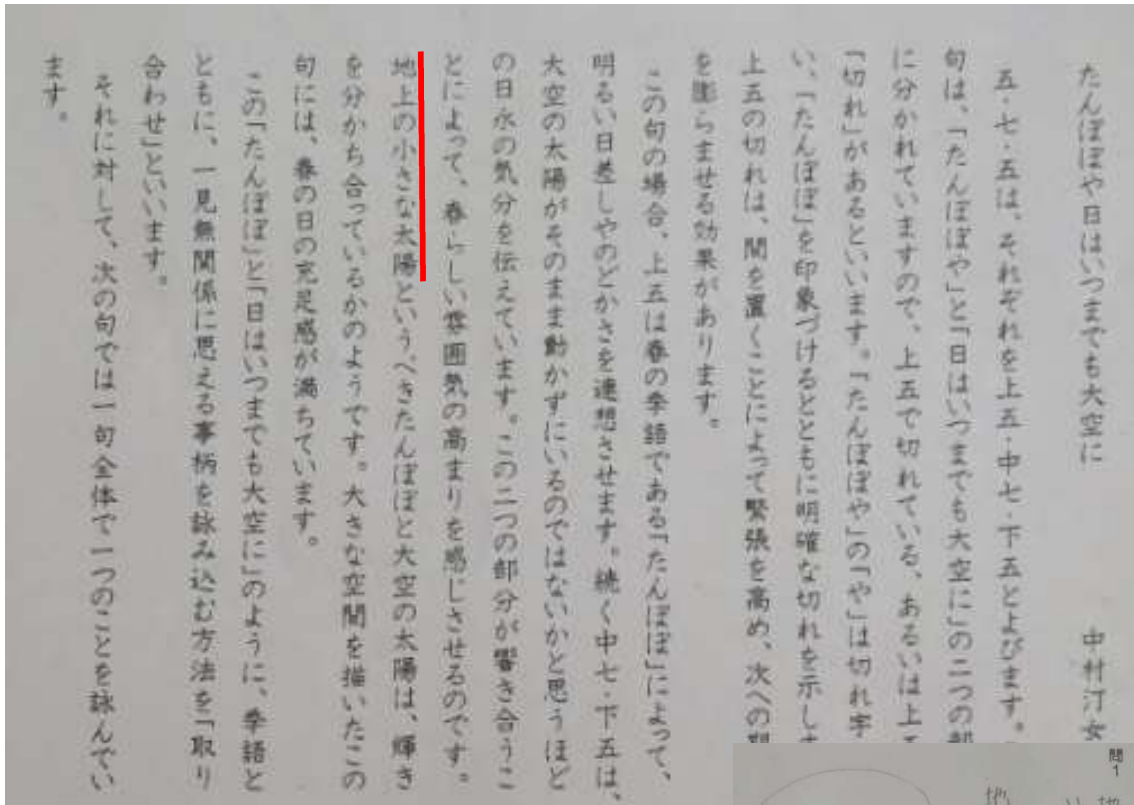
生徒作成問題 3

- (1) J の句の「けさの秋」とは、いつのことを指しますか？
- (2) 「けさの秋」と同じ季節の季語を次の中から全て選びなさい。



4 授業のポイント4

○生徒たちが作成した問題（プリントにある説明文をもとにする）



生徒作成問題4

「地上の小さな太陽」という表現が使われているが、これは何を示しているか。その表現を用いた理由を40字以内で述べよ。

